

第27期第11回常任理事会議事録

日 時：1993年12月16日 15時00分～17時40分

場 所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：浅井，岩崎，大西，小倉，関口，中村，新田，
藤谷，松野，村上 以上10名

議 事

1. 第27期第4回理事会議事録の確認

原案どおり承認。

2. 各委員会からの報告及び審議

庶務…後援名義等使用許可2件（多重散乱ワーク
ショップ等主催 MUSCLE 7, 気象庁等主催気
候フォーラム）

11月2日に文部大臣より定款の一部改正の承認通知を受けた。

IAMAPの「国際気象学論文集」刊行に関し、
完了報告書提出，監査が無事終了し，船舶振
興会から12月16日に交付金を受領した。

気象協会より岡田賞候補の推薦依頼があった
が，学会としては特に候補をあげない。

会計…1993年10, 11月の収支決算を報告。TRMMの
受託研究に関する学会預かり金があるため，
会費納入直前の資金繰りは問題なく対処でき
そう。

学会予稿集についても次回から入札制にした
い。

天気…12月号の内容及び1, 2月号の予定を報告。
IAMAPの特集号の原稿は80%程度が順調に
集まっている。3月末に発行予定。5500部印
刷。

気象集誌…12月17日に編集委員会を予定。2月号は
11編。

93年の総投稿数は80件を超えた。92年が少な
かったのはモンスーン特集号の反動と思われる。

Inst. Sci. Information (ISI) から集誌の複写
権委譲の打診があった。学会としては日本の
複写権センターへの登録を予定しているの
で，複写権センターとISIの間の問題になる。

来年の予定として，中国との砂漠についての
共同研究 (HEIFE) に関する京都シンポジウ
ムおよび TOGA-COARE をそれぞれテーマ
にした特集号かそれに近いものを計画してい

る。

研究ノート…東大海洋研大榎臨海センターで「やま
せ」のシンポジウムを行った。特集号を出せ
ないか相談している。

教育と普及…来年度の夏季大学のテーマは「局地気
象・気候」を予定。会場は気象大学校を検討
しているが，狭くて無理か。

「気象談話室」は原稿が集まりにくくなって
きた。企画の再検討の時期か。

国際学術交流…締め切り後に1件の応募があり承認
した。

来年の秋季大会（福岡）のシンポジウムへの
外国人参加者補助を承認した。

IAMAP…来年3月の組織委員会で，すべての活動
が終了する。

パソコン通信…11月の着信件数293件。

現在の会員数は204名，フリートークは1000件
を超えた。

UAP に年間60万円を支出してホストシステ
ムの運営を委託しているが，それほど大変な
業務ではないので，ホストのパソコンを学会
事務局に移設したい。

その他…1993年秋季大会収支報告を承認。

1994年春季大会担当の気象庁観測部と気象大
学校で集まりをもち，分担を決めた。シンポ
ジウムのテーマは「酸性雨」を予定。

3. 日本学術会議会員候補の推薦について

日本学術会議会員推薦管理会から会員候補の届け
出要請があった。理事会で決められた手順（『天気』
34巻3月号）により，5名の委員からなる選考委員
会を発足させることにする。討論の結果，松野，竹
内，木田，大西理事に加えて原田会員（気象庁観測
部長）を選考委員の候補とする。本人の同意を得た
うえ，全理事による選考委員の信任投票を行う。『天
気』12月号に全員候補の推薦募集の記事を掲載する
予定。

4. 会員の新規加入等について

個人32名，団体1の入会を承認。個人60名，団体
2の退会を報告。

退会が多いのは，会費請求を行う时期的なもので，
例年のこと。今年はB会員からA会員への変更も多

い。

5. 委託研究について

中部電力からの委託研究、「東アジアの気候システムと日本の気候変動」(代表世話人は筑波大の安成会員)の窓口を学会が受け持つことについて承認。

6. 日本複写権センターの加盟について

気象研究ノートの著作権表示について見通しがついたため、懸案となっていた日本複写権センターとの間で複写に係わる権利委託契約を結ぶことを承認。米国の複写権センターへも同時に登録する。

7. 評議員会の日程と議題等について

2月3日を第1候補とし、1月28日を第2候補とする。議題や会議資料は担当理事と相談のうえ、事務局で用意する。

8. 第28期役員選挙について

11月19日に第1回の選挙管理委員会が開かれた。1月31日を立候補届け出の締め切り、3月4日を投票期日とすることが決められた。候補者の名簿記載順序は、今回から選挙管理委員会が抽選により決定することとなった。

9. 1994年度事業計画および予算案について

1月に郵便料金の値上げが予定されており、年間180万円程度の負担増が見込まれる。これは会費値上げによる増収分の3分の1にあたる。再来年度に向け、大会参加費の値上げなどを検討する必要が出てこよう。

10. その他

学会事務局のパソコンのバックアップ機として、もう一台マックを購入したいとの提案が会計担当からあり、承認。価格約60万円。

編集後記：皆様にとって気象学会とは何でしょうか？学会=大会の人、学会=「天気」の人、学会=集誌の人等々。「天気」の編集作業を通じて学会が非常に多くの会員の様々なかかわり方によって支えられていることを知ることができました。

もう一つ感じるのは、気象学会のスムーズな運営は、気象庁の組織力に負うところが大きいのではないかと。これを離れようとすれば大きな困難が伴うであろうことは容易に想像されます。しかし、近年

の社会ニーズにも伴い学会員の活躍する分野が一段と幅広くなりつつある今、学会は「個人」の集合であるという原則を少し見直しても良い時期に来ているのではないかという気がします。

私ごとですが、1月から1年間 NASA/GSFC に来ています。D.C. 郊外のカンと冷たい冬の空気を味わっています。この機会にアメリカ気象学会の様子など何かい間見てくることができればと思っております。

(高藪(中込) 縁)